

志水家と郡山

57期生

I テーマ設定の理由

現在北海道に住む母方の先祖“志水家”と、私の住む奈良県大和郡山市との関係は、幼い頃、大和郡山に引っ越してきた時から抱いていた大きな疑問だった。母からは「先祖は郡山藩士だったが、それ以上の事は分かっていない」と聞かされていた。いつか私がしっかりと調べよう、そう思っていたので、中学最後の自由研究にこのテーマを選んだ。

II 研究方法

- (1) 文献調査・インターネットを使用した調査 — 郡山城の歴史について知識をつける
- (2) 実地調査 — 柳沢文庫での調査 など
- (3) 史料分析 — 収集した史料の関連性を考える

III 研究内容

1 調査前・事前情報と予想 — これらを基に調査を進めていく

- (1) 先祖は郡山藩士だった
 - (2) “志水家”は、山梨の甲府から、奈良の郡山に国替えで移ってきた (確認無し)
 - (3) 郡山市内に今も“志水”という家がある
 - (4) 江戸時代の郡山藩の地図に“志水”の家が載っていた (確認無し)
- 仮説①—市内に住む“志水さん”は親戚ではないか

2 郡山城の歴史 — 1-(2)をヒントに



(1) 郡山城

- 所在地：奈良県 大和郡山市 城内町
区分：平城
- ・明智光秀が建築指揮を執ったので、福知山城によく似た構えを持つ
 - ・16世紀後半、豊臣秀吉の弟・秀長の100万石の居城となる
 - ・徳川幕府5代将軍・徳川綱吉の側用人・柳沢吉保の柳沢家が約150年間城主であった。

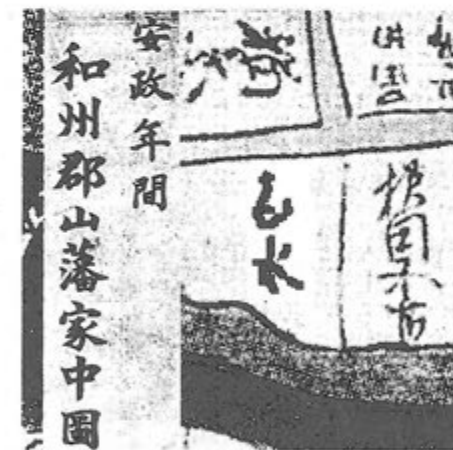
(2) 志水家の時代

- ・1-(2)より、山梨県の甲府から移ってきた大名を探す
- 1724年8月13日、柳沢吉里が15万石で甲斐(山梨)から郡山に封ぜられている
- 志水家が仕えていた大名が、柳沢家である可能性が高い

3 祖父からの情報

- (1) “志水家”は最終的に、宇都宮、東京に住んでいた
(祖先に関する書物は第二次世界大戦時、東京大空襲で焼失 祖父は後に北海道へ)
- (2) 『高祖父・志水 高次郎の「志水家」についての手記』、入手
 - ① 「志水家ノ先ハ世々大和國郡山藩士ニシテ鬨斗目以上ノ家格(武家)ナリ」
→代々郡山藩の藩士である
 - ② 「(高次郎の)祖父平左エ門源辰用ハ同藩士上田家ヨリ入りテ継グ」
→③、⑤より、高祖父の祖父・志水 平左衛門(源 辰用)…1800年代前期～後期
 - ③ 「(平左衛門は)兄ノ子弘馬ヲ養嗣ト為ス」
→志水 弘馬…志水 平左衛門の養子
 - ④ 「(弘馬は)同藩士和田豊蔵女直子ヲ娶ル」
→②、③より、志水 弘馬の義父・郡山藩士和田 豊蔵…1800年代前期～後期
 - ⑤ 「(弘馬は)明治三十八年職ヲ退キ～足利ニ住シ～大正十四年三月没ス享年八十三」
→志水 弘馬…1842～1925・関東にいた

「高祖父・志水 高次郎の手記」→



「安政年間 和州郡山藩家中圖」

⑤	三月致ス享年八十三 遺性篤實謹譲人其徳
④	事ヲ能ク判事トナリ正六位兼六等ニ進ム
③	死ノ子弘馬ヲ養嗣ト為ス 弘馬ハ上田如新ノ三男ニシテ源辰用ト號シ同藩士和田豊蔵女
②	平左エ門源辰用ハ同藩士上田家ヨリ入りテ継グ
①	武家ナレハ志水ニ養嗣ト為セリヤ疑フハカリ祖父
	志水家ノ先ハ世々大和國郡山藩士ニシテ

4 “柳沢文庫”で地方史研究者の方から情報収集 — 仮説①の確認

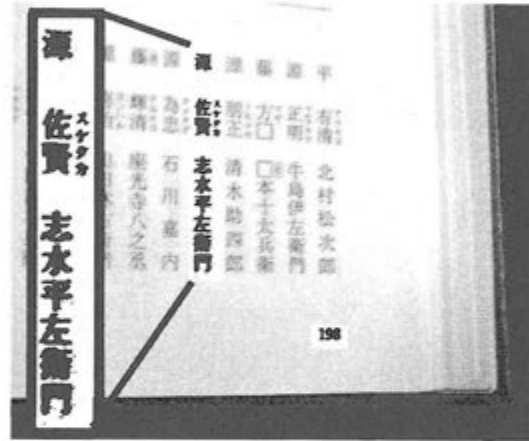
- (1) 『安政年間 和州郡山藩家中圖』
 - ・安政…1854～1860 明治維新直前の幕末
 - 現在の地図と照らし合わせてもらうと、今も同じところに“志水”という家を確認した(1-(3)の確認、仮説①の証拠を探す)

(2) 『柳沢史料集成 第二巻 分限帳類集上』

- ①【宝暦江戸家中姓名帳（宝暦九年）】内に、志水 平左衛門（源 佐賢）、発見
→宝暦九年=1756年より、志水 平左衛門（源 佐賢）…1700年代前期～後期
②p. 29 終行に和田 豊蔵、発見（原本の状態が悪いため撮影不可能だった）
→「郡山藩士・慶応三年（1867）に37歳」との記述より、和田 豊蔵…1830～

『柳沢史料集成 第二巻 分限帳類集上』

【宝暦江戸家中姓名帳（宝暦九年）】



5 志水さんの情報（柳沢文庫で紹介された、志水さん宅訪問）－仮説①の証拠を探す

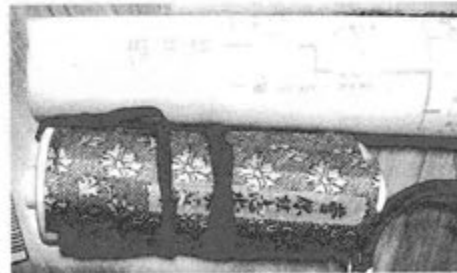
(1) 家紋から

我が家“丸に撫子” ⇔ 志水さん“星梅鉢”



(2) 志水さん一族の史料から — 『志水家系図』『菅原姓志水家系誌』『重要記録志水家』他

- ・関連性見いだせず、志水 弘馬と同年代と思われる人物はいたが名が一致しない
→①志水さんによれば、江戸時代武家では跡継ぎ争いを防ぐ為、次男以下の男子を養子に出し姓を継ぐ者を一人にしていた、同じ志水家なら同年代の者がいるのはおかしい、とのこと



仮説②－(1), (2) より“私の志水家”と“志水さんの家”は違う志水一族ではないか？

（仮説②を証明する証拠（＝仮説①に矛盾する証拠）を探す）

(3) 血筋から — 『清水・志水一族』より

私の志水…… 3－(2)－②で志水 平左衛門の氏が“源”であることから
“清和源氏流清水一族”か“清和源氏（徳川氏流）清水一族”
志水さん…… “尾州菅原姓志水一族”

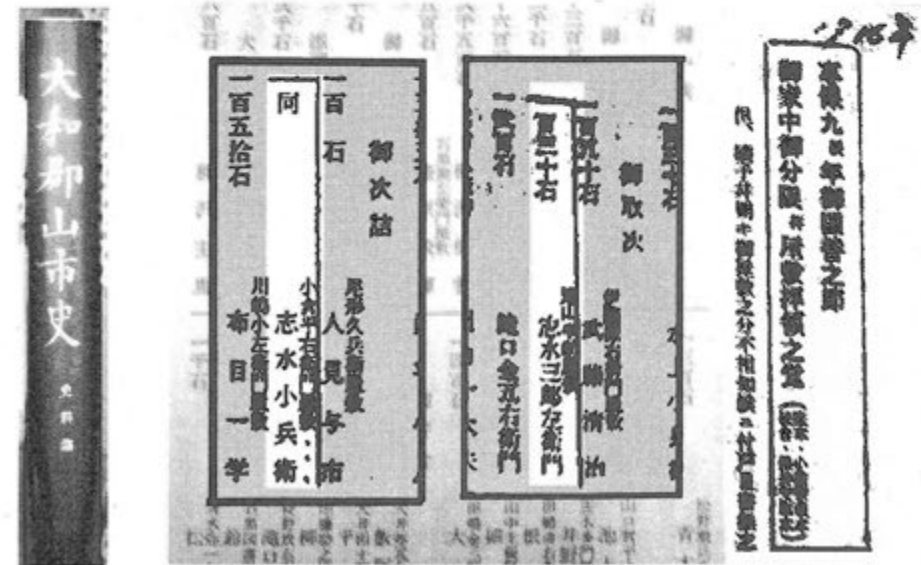
『清水・志水一族』↓



(4) 郡山藩の分限帳から — 『大和郡山市史』より

①【享保九年 御国替之節 御家中御分限 屋敷拝領之覚】(1724年)

- 志水 小兵衛 [御次詰役 一百石]
→志水さんの先祖・1600年代後半～1700年代前半
- 志水 三郎左衛門 [御取次役 百三十石]
→小兵衛と同時期（仮説①だと5－(2)－①に矛盾）



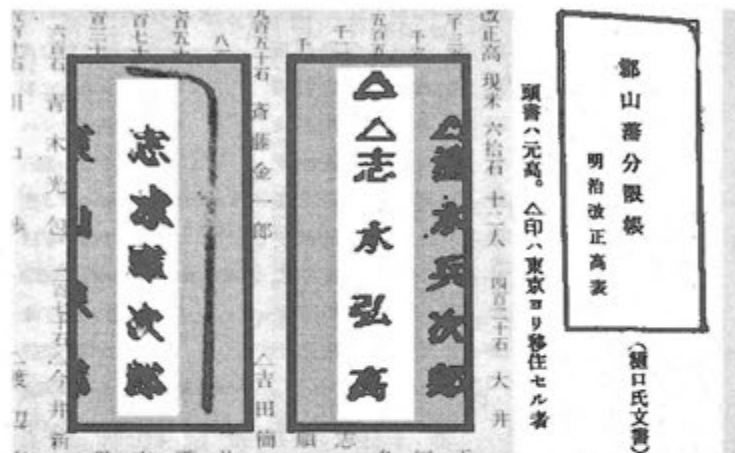
②【郡山藩分限帳 明治改正高表】(1868年頃)

— 「△印ハ東京ヨリ移住セル者(江戸で働いていた郡山藩士)」

志水 庫次郎 →志水さんの先祖・1800年代中期～

志水 弘高(△) →庫次郎と同時期(仮説①だと5-(2)-①に矛盾)

△印より、東京から帰郷している



⇒ (3), (4)-①, ② より、柳沢時代、郡山藩には志水という藩士が二家あった

6 史料分析

(1) 和田 豊蔵の实在から、『高祖父・志水 高次郎の手記』を考える

・和田 豊蔵 『柳沢史料集成 第二巻 分限帳類集 上』p.29では
 ・和田 豊蔵…郡山藩士・1830～ (4-(2)-②)

『高祖父・志水 高次郎の手記』では
 ・和田 豊蔵…郡山藩士・1800年代前期～後期(3-(2)-④)

→上記二人の和田 豊蔵は、同一人物と考えられる

・『高祖父・志水 高次郎の手記』

……研究の土台となる史料だが、他の文献史料の裏付けが無く信憑性が低かった
 ⇒和田 豊蔵の实在より、『高祖父・志水 高次郎の手記』の信憑性が高くなった

(2) 志水 平左衛門(源 辰用)と志水 平左衛門(源 佐賢)を考える

・志水 平左衛門(源 辰用) - 郡山藩士・1800年代前期～後期(3-(2)-②)

・志水 平左衛門(源 佐賢) - 郡山藩士・1700年代前期～後期(4-(2)-①)

→姓名の一致 ⇔ 年代の違い

⇒志水 平左衛門(源 佐賢)は志水 平左衛門(源 辰用)の先祖である可能性が高い

(3) 志水 弘馬と志水 弘高を考える

・志水 弘馬 - 郡山藩士・1842～1925 ・関東に住んでいた (3-(2)-⑤)

・志水 弘高 - 郡山藩士・1800年代中期～・東京で働いていて帰郷した(5-(4)-②)

→名前の類似・東京周辺に住んでいたこと

⇒志水 弘馬と志水 弘高は親戚である可能性が高い

(4) 二つの志水家の存在から、志水 三郎左衛門を考える

・志水 三郎左衛門(5-(4)-①)

↳郡山藩士・1600年代後半～1700年代前半・志水 小兵衛(志水さんの先祖)と同時期

→「郡山藩には志水という藩士が二家あった」ことと「志水 小兵衛(志水さんの先祖)と同時期」であることから

⇒志水 三郎左衛門は私の家の先祖である可能性が高い

(5) 役職を考える

・志水 弘高は「東京から帰ってきた」とされている(5-(4)-②)

・志水 平左衛門(源 佐賢)は【宝暦江戸家中姓名帳】に載っていた(4-(2)-①)

・江戸時代の役職は基本的に世襲制

仮説③ - 私の一族の役職は、江戸での仕事だったのではないか

・志水 三郎左衛門の役職(5-(4)-①)

↳御取次

・御取次…江戸幕府と各藩の間の取り次ぎ役、江戸の各藩の藩邸に住み込んでいた
 →志水家の役職が御取次なら、「志水 弘高が「東京から帰ってきた」ことと

「志水 平左衛門(源 佐賢)が【宝暦江戸家中姓名帳】に載っていた」ことも頷ける
 ⇒志水家の役職は御取次であった可能性が極めて高い

IV 結論

「志水家」(清和源氏方)

↓ — 甲斐国・甲府で柳沢氏(譜代)に仕える

1724(慶応9)

↓↳志水 三郎左衛門 …柳沢氏について、120石で郡山藩(15万石)の御取次

1759(宝暦9)

↓↳志水 平左衛門(源 佐賢) …御取次で江戸郡山藩邸居住

1840ごろ

↓↳志水 平左衛門(源 辰用) …高祖父の祖父

1870ごろ

↓↳志水 弘馬・志水 弘高 …御取次で江戸郡山藩邸居住

↳栃木へ ↳郡山へ

V 総括

最後に、私がこの研究をここまで進めてこられたのは、ひとえに、調査に協力して下さった方々のおかげだと思っている。私のとても個人的な研究にも関わらず、貴重な時間をさいて、私と一緒に膨大な量の文献史料と向き合い、何時間も本当に真剣に話し合ってくれた。本当に感謝でいっぱい。

また、一見何のつながりもない史料を謎解きのように結びつけていくのは面白かった。歴史の分野を考えていくのはゼロからの手探りで難しい。だが、それ以上の達成感がある。機会があればまたチャレンジしてみたいものだ。